



# 神奈川東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2015-2016年度 第45週報 No. 1934 2016年(平成28年) 6月10日 第1934回 例会記録 6月17日発行

### 本日〈6月17日〉のプログラム

- ◆斎唱 「それでこそロータリー」
- ◆献立 味噌カツ丼御膳
- ◆卓話 年度末挨拶  
会長、副会長、幹事、会計

« 本日のBGM »  
アルバム「グループ・サウンズ ベストヒット 16」より



PHOTO 小池將夫会員

司会 小山 市康 副幹事

### 特別行事

点鐘 江森 国一 会長

斎唱 「我等の生業」

◎第4グループ 現・次年度ガバナー補佐引継ぎのご挨拶



2015-16年度 小池 旭 ガバナー補佐(横浜東RC)

四つのテスト 山本 芳弘 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)

### ゲスト紹介

小池 旭 様 (2015-16年度第2590地区第4Gガバナー補佐)  
樋口 明 様 (2016-17年度第2590地区第4Gガバナー補佐)  
藤代 宏一 様 (ゲストスピーカー)  
重松 道夫 様 (スピーカー同行者)

2015-2016年度 RI会長 K. R. "ラビ" ラビンドラン



世界へのプレゼントになろう

第2590地区 ガバナー 箕田 敏彦

会長 江森国一	会計 渡邊淳
会長エレクト 植田清司	副会計 白井康夫
副会長 矢野修二	S A A 長井章
副会長 加藤仁昭	副S A A 白鳥厚夫
幹事 朝日達夫	副S A A 濵谷高弘
副幹事 小山市康	クラブ会報 田中龍太郎



2016-17年度 樋口 明 ガバナー補佐(神奈川RC)

・次週、例会終了後に今年度最後のクラブ協議会を開催致します。出席義務者の方は、ご出席の程よろしくお願い致します。

#### 出席報告 中野 真理 出席委員長

会員総数	52名	(31+21)名
出席会員数	42名	(24+18)名
出席率		85.71%
ゲスト	4名	ビジター
前回補正後	87.23%	前々回補正後
		93.62%

#### 誕生日祝 中野 真理 会員 (6月13日)



#### 結婚記念日祝 須永 久一 会員 (6月11日)



#### スマイルボックス 濵谷 高弘 副SAA

2015-16年度 第2590地区 第4G ガバナー補佐 小池 旭様  
(横浜東RC) 1年間大変お世話になりました。次年度ガバナー補佐 神奈川RC 樋口明様を宜しくお願ひ致します。

2016-17年度 第2590地区 第4G ガバナー補佐 樋口 明様  
(神奈川RC) 次年度は、神奈川東RCの皆様に大変お世話になります。宜しくお願ひ致します。

中野真理さん 誕生日祝い、ありがとうございます。

江森国一君 ①小池ガバナー補佐、ようこそ。一年間お世話になりました。樋口さん、次年度お手柔らかに。②藤代様、卓話、宜しくお願ひ致します。

青柳 紀君 ①40周年記念セレモニ一大成功。吉田実行委員長、他役員の皆様、ご苦労様でした。②ソウル国際大会参加の皆様、お世話になりました。③濱谷副SAAがうるさいので年末調整しました。

山本 登君 阪神困った。

山田正憲君 小池ガバナー補佐、樋口次年度ガバナー補佐、ようこそいらっしゃいました。

西山 潔君 藤代様、本日の卓話、宜しくお願ひ致します。楽しみしております。

植田清司君 青柳さん、新しいお店のオープン、おめでとうございます。先日伺いましたがとっても素敵なお店でした。ご盛況をお祈り致します。

茂木知子さん ~ソウル国際大会報告~ルーマニア、ウクライナにロータリークラブが存在するとわかり、狂喜する赤堀会員、M.岡部会員。そのわけは、お二人はルーマニア、ウクライナのロータリークラブと友好クラブ、姉妹クラブを締結したいと希望しています。資格はパツキンに青い目だそうです。

白鳥厚夫君 ニコニコ、目標達成にほど遠いです。ご協力お願い申し上げます。

濱谷高弘君 本年度、副SAAを任命頂き、無事に過ごすことが出来ました。会員諸兄に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 会長報告 江森 国一 会長

・先日、メキキャップにいらっしゃった大阪西南RC藤田浩二様よりバナーが届いておりますので回覧します。

#### 幹事報告 朝日 達夫 幹事

・本日、例会終了後に6月度定例理事会を開催致します。  
場所 3F キングアーサー

6月10日	12件	43,000円
本年度累計		1,873,505円

## 「今後の経済展望」

第一生命経済研究所 主任エコノミスト 藤代 宏一 様  
(紹介者 江森 国一 会員)



USD/JPYは2012年夏までの80円割れの状態から2015年夏の125円まで、およそ60%も円安が進んだ。しかしながら、15年後半からはトレンドが反転、16年3月に110円の節目を割れると、5月の連休中には105円割れを試す展開となった。複数年にわたる円安のサイクルはピークアウトした模様だ。

そこで、前回のトレンド転換点にあたる2007年後半の状況と現在の状況を比較することで、今後の金融市場ならびに日本経済について考察したい。相違点は主に3つ。まず、①として産業構造の変化によって為替変動に対する耐性が増していることがあげられる。日本企業は2007年頃までは為替の円安を武器に輸出競争力(=価格競争力)を高め、海外需要に輸出で対応してきた。しかしながら、リーマンショック後の複数年にわたる円高は日本企業の価格競争力を削ぎ、輸出産業は苦境に陥った。それを教訓に、日本企業は海外現地生産に舵を切り、現地の需要を直接取り込むビジネスモデルに転換。これによって為替変動による業績への影響を軽減させた。

次に②として、当時とは資源価格の動向が大きく異なる。2007年後半は、新興諸国の著しい躍進が爆発的な資源需要に繋がるとの見方が世界的に共有され、資源価格が急騰。日本ではレギュラーガソリンが180円を超えるなど、エネルギーコストの上昇が顕著となった。企業は円高・原油高のダブルパンチを食らい収益が大打撃。それは労働コストの削減に繋がり、家計にも深刻な影響を与えた。反対に今次局面では、資源価格下落が企業収益を潤しており、経常利益は過去最高益を僅かに下回るに過ぎない水準を維持している(法人企業統計、年度ベース)。資源価格下落は、当初期待されていたような消費の加速につながらず、寧ろ資源投資の落ち込み等を通じた悪影響ばかりが目立ってしまったが、それでも非資源国日本にとってみれば、資源価格が高騰する状態より遥かに好ましい。

上記①、②は前回の円高局面と比べて、その影響がマイルドになることを示している。

一方で、前回の円高局面でさほど問題にならなかったのに、今次局面でそれなりに打撃となりそうのが③インバウンド需要だ。訪日客数は2013年頃から著しい増加基調にあるが、その背景には、アジア諸国に対するビザ発給要件の緩和という制度

的な変化も去ることながら、為替の円安が大きく効いている。実際、為替と訪日外客数の間には一定の連動性が確認されており、そこには為替の変動から遅れること半年程度で訪日外客数が増減するという時間的な関係も認められる。この見方が正しいなら、2016年入り後の円高がそろそろ表面化してくる頃だ。

そうしたなか、6月8日発表された4月国際收支統計では、不気味な結果が示された。訪日外国人の消費を反映する「旅行収支・受取額」が2711億円と1~3月期平均の3117億円から減少。前年比の伸び率も2015年中の50%超から15%程度に減速しており、円高の影響を窺わせた。ただ、ここで注意したいのは、“減速”といってもそれは50%超という異常な伸び率からの減速であり、減少に転じたという訳ではない。また、今後、円高が進んだとしてもインバウンド需要が2012年以前の状態に逆戻りする可能性は低いだろう。

以上を整理すると、近年インバウンド需要の恩恵をダイレクトに受けてきた業種にはそれなりに打撃が及びそうだが、日本経済はこの10年で円高に対する耐性を強めてきたので、前回の円高局面よりは影響がマイルドになると期待される。

## ロータリーニュース

ローマ法王による特別ミサにロータリー会員が出席

4月30日、フランシスコ・ローマ法王による特別ミサがバチカンで行われ、80カ国から約9,000人のロータリー会員が出席しました。サンピエトロ大聖堂前の広場にロータリアンのための特別席が用意された今回の特別ミサで、ローマ法王は、慈悲の心、一体感、人類への奉仕を呼びかけました。

詰めかけた総勢10万人以上の出席者の中には、世界各国の警察や軍の関係者も含まれていました。これは、「世界の平和、安全、連帯感の文化を築く」ことが目的です。

アルゼンチン出身のフランシスコ・ローマ法王は、ローマカトリック教会の頂点に君臨する存在でありながら、その言葉は宗教の枠を超え、多くの人びとの心に届いています。今年発表された世論調査の結果では、フランシスコ・ローマ法王は世界で最も好感を持たれ、信頼されているリーダーであることが分かっています。

法王による「平和」のメッセージは、ロータリー会員の心にも響いています。インド・タミルナドゥ州のR. アショカンさんは次のように話します。

「法王の平和のメッセージは『受容』を説いています。すべての人びとを受け入れるロータリーは、クラブや地域社会にこの平和のメッセージを届けることができるでしょう」

法王とロータリーはいずれも、国境や文化を越えた存在であるため、今回のミサは、「本当に特別なもの」だと話すのは、米国カリフォルニア州からやってきたアドリアナ・ランティングさん(ロングビーチ・ロータリークラブ)です。

「こんな特別な機会を逃すことはできませんでした」

ランティングさんのクラブ仲間であるマドリッド・ジマーマンさんは、カトリック教の信者ではありませんがこのミサに出席。法王は、誰の心にも届く力を持っていると言うジマーマンさんは、「ロータリーにも同じ力があると思います。表現の仕方は違うかもしれません、誰かを助けたいというロータリアンの願いは同じです。このミサは、支援を必要とする人に手を差し伸べるというロータリーの目的を再確認する機会となりました。クラブにこのメッセージを持ち帰りたいと思います」と話します。

特別ミサの後、K. R. ラビンドランR I 会長が率いる少人数のロータリー会員がローマ法王と謁見しました。法王はそこで、ボリオ撲滅活動の重要性を強調し、ロータリーがこの病との闘いを継続するよう奨励しました。

ヒンズー教徒であるラビンドラン会長は、法王との謁見について、次のように振り返ります。

「フランシスコ・ローマ法王より、ロータリーがポリオ撲滅の闘いを継続するようにとのお言葉をいただきました。ロータリーによるこれまでの活動に誇りを感じただけでなく、現在の活動への信念を新たにし、未来への希望を大きくすることができます」

## 難民問題に取り組むために

特別ミサの前日、ロータリーはローマで、シリア、イラク、アフガニスタンからの難民問題への取り組みについて話し合うパネル討論会を実施しました。第二次世界大戦以来、最大規模であると言われている現在の難民問題。過去40年間で、1100万人のシリア人を含め、6000万人以上が戦争と暴力のために住む場所を失っています。

「Vatican Radio」によって進行されたこのパネル討論には、世界食糧計画の専門家、イエズス会難民サービス、国連難民高等弁務官事務所が参加し、新天地にたどり着いたこれらの難民への支援方法が話し合われました。

ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長はこの場で、難民の社会融合のためにロータリークラブが実施しているいくつかの

取り組み（コンピューターの符号化スキルを教える学校、イタリア・リミニでの職業研修プロジェクトなど）を紹介しました。

「今日の難民問題は人びとの慈悲の心を試す試金石」と語ったヒューゴ事務総長は、ロータリー会員とパネリストに、この人道的危機に取り組むために必要なリソースと資金を集めるため、それぞれが持つネットワークを生かしてほしいと述べました。

「難民への支援を考えたとき、ロータリーと法王には同じ課題がある」と話すのは、Bonaventure Fohtungさん（オーストリア、APPER・ブルーマウンテン・ロータリークラブ）です。

「それぞれの国に戻って、模範を示さなければなりません。難民を支援する活動を1つでも多くクラブが行うことでの大きな違いをもたらせるでしょう」

ローマで2日間にわたり行われたこのパネル討論と特別ミサは、バチカンによる「いつくしみの特別聖年（Jubilee of Mercy）」にあわせて企画され、第2080地区（イタリア）が「Jubilee of Rotarians」として推進したものです。一連の行事として、チャリティコンサートや、ポリオ撲滅の募金を目的とした晚餐会も行われました。



ロータリーニュース

次回〈6月24日〉の予定

年度末夜間例会

5月度出席報告